

高知医療センター 各局による  
(看護局・薬剤局・医療技術局・栄養局・事務局)  
クオリティ・インディケータ(QI)  
クリニカル・インディケータ(CI)  
2018 ..... P2~5

# にじ

# 11

NOVEMBER 2018 Vol.157

第50回 地域医療連携研修会を開催しました! ... P6~7

高知医療センター イベント情報 ..... P8



10月20日(土)、21日(日)に開催された、リレーフォーライフに当院職員も参加しました

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —



# 高知医療センター

各局による

- ▶ 看護局
- ▶ 薬剤局
- ▶ 医療技術局
- ▶ 栄養局
- ▶ 事務局

## クオリティ・インディケータ（QI） / クリニカル・インディケータ（CI）

### 看護局における『医療の質向上への取り組み』 看護局長 田鍋 雅子

看護局からはこれまでと同様6つの指標データを報告いたします。

指標1の「各資格取得人数」は、一定の専門性が証明された資格を有するものを資格取得者として報告しました。院内では、資格取得者らが中心となり研修会を開催する等、看護の質向上をめざした看護力の育成に注力しています。院外に向けては、認定看護師、専門看護師による30分～1時間以内の研修やコンサルテーションを、平日時間内を主体に無料で講師派遣しておりますので、詳しくは看護局のホームページをお訪ねください。

(<http://www2.khsc.or.jp/info/subtop.php?SID=2009>)

指標2は、一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとしての臨床実践能力を備えているといわれており、当院の看護師の質を反映する一つの指標と考え、経年的に比較しています。

指標3は、徐々に増加し9%台になりました。この数値は、厚生労働省衛生行政報告例の男性看護師構成比率7.3%（H28年度）を上回っています。急性期病院、基幹災害拠点病院といったクリティカルな領域だけではなく、こころのサポートセ

ンターでは、成人精神科、児童精神科の外来・入院医療も担っています。男性看護師が増えることで、より幅広い看護の提供につながると考えています。

指標4は、新人看護師研修の充実と病院全体で継続して新人看護師を育てていることの証であると考えます。近年のデータではばらつきがあることから、2年目・3年目の看護師の教育支援体制の更なる強化が必要と考えています。

指標5は、地域完結型医療をめざして多職種連携が定着してきていることが考えられます。

指標6は、横ばいですが、1例1例のケースを大事にしながら取り組んでいます。カンファレンスによるチーム医療の推進、医療・ケアの質向上や家族及び職員のグリーフケアが行われたことによる質的な成果にも目を向けつつ、デスクカンファレンスの定着を図りたいと考えます。

2016年度から再開したリンクナース会は、活動が定着しつつあります。小集団活動を通して、職員の持ち味を活かしながら看護の質向上に向けた様々な取り組みを展開していきたいと考えています。

### 看護局「看護の質」インディケータ 2017

指標番号	指標名称	H27	H28	H29	算出単位	分子/分母および備考				
看護1	各種専門領域認定資格取得者率(%)	18.9	19.6	19.1	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：看護局所属の全職員数 備考：特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する(H27年度は133/704人、H28年度は138/705人、H29年度は139/726人)				
	各種資格取得人数(人)		H27	H28	H29	各種資格取得人数(人)		H27	H28	H29
	がん看護専門看護師	3	3	3	消化器内視鏡技師	9	8	6		
	小児看護専門看護師	2	2	3	リンパ浮腫指導技能者	2	3	4		
	母性看護専門看護師	1	1	0	心臓リハビリテーション指導士	5	3	2		
	精神看護専門看護師	1	1	0	日本癌治療学会認定データマネージャー	1	1	0		
	皮膚排泄ケア認定看護師	3	3	3	栄養サポートチーム専門療法士	1	1	1		
	感染管理認定看護師	2	2	2	高知県臓器移植院内コーディネーター	3	3	3		
	集中ケア認定看護師	2	2	3	日本褥瘡学会認定師	1	1	1		
	救急看護認定看護師	3	2	3	日本口腔ケア学会4級認定者	1	1	0		
	不妊症看護認定看護師	1	2	2	AHA BLS インストラクター	1	1	0		
	新生児集中ケア認定看護師	1	1	1	ICLS インストラクター	6	8	8		
	脳卒中リハビリテーション認定看護師	1	1	1	ISLS/PSLS(脳卒中初期診療) ファシリテーター	1	1	1		
	小児救急看護認定看護師	1	1	1	JPTEC インストラクター	3	4	3		
	慢性呼吸疾患看護認定看護師	1	1	1	JNTEC インストラクター	1	1	3		
	手術看護認定看護師	1	1	1	JTAS(緊急度判定支援システム) インストラクター	1	1	1		
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1	1	1	KIDUKIコース(患者急変対応コース) ファシリテーター	1	1	2		
	認定看護管理者	6	6	6	日本DMAT隊員	10	9	14		
	日本精神科看護協会 精神科認定看護師	0	0	1	高知DMAT隊員	6	6	3		
	第一種衛生管理者	4	4	4	高知県看護協会災害支援ナース	2	3	3		
	医療安全管理者認定	2	2	2	新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	3	4	4		
日本糖尿病療養指導士	1	2	2	プラクティカルCTG判読スペシャリスト	4	6	6			
インターベンションエキスパートナース	7	7	8	アロマセラピー検定1級	3	3	1			
呼吸療法士	24	24	25							
看護2	経験年数5年以上の看護師の占める割合(%)	71.7	74.0	76.6	年度	分子：経験年数5年以上の正規看護師数 分母：看護師(正規職員)数 備考：一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている				



指標番号	指標名称	H27	H28	H29	算出単位	分子 / 分母および備考
看護3	男性看護師割合 (%)	7.5	8.5	9.4	年度	分子：正規男性看護師数 分母：看護師(正規職員)数 備考：男性看護師と女性看護師の考え方(視点)や、性差は看護の質に影響する
看護4	新卒新人看護師3年定着率 (%)	87.5	81.6	81.8	年度	分子：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数(4月1日を起点とする) 分母：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 備考：臨床経験3年目は、クリニカルラダーレベルIIに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる
看護5	多職種カンファレンス件数(件)	2,227	2,246	2,311	年度	分子：実施件数 分母：- 備考：チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する
看護6	デスカンファレンス実施率 (%)	8.1	6.5	6.7	年度	分子：デスカンファレンス件数 分母：死亡退院患者数 備考：家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す

## 薬剤局における『医療の質向上への取り組み』 薬剤局長 田中 聡

薬剤局では、安全で安心な薬物治療を支援するために、調剤業務や製剤業務に加えて薬剤師の常駐による病棟業務、がん化学療法の安全管理、抗菌薬の適正使用への介入、救急医療支援業務や専門的医療チームへの参加など、様々な業務を行っています。

表にH29年度までの薬剤局のクリニカル・インディケーターを示しました。薬剤管理指導業務とは、“入院患者さんの薬歴等をチェックして薬学的管理を行い、投薬の妥当性を確認して患者さんへの十分な説明と指導を行う業務”であり、指標1と2は薬剤師の入院患者さんに対する薬物療法の支援状況を表しています。当薬剤局では病棟薬剤業務実施加算(医師等の負担軽減、薬物療法の有効性、安全性の向上に資する薬剤業務：1病棟1薬剤師の配置が必要)は算定していませんが、薬剤管理指導の実施と積極的な医薬品情報提供や症例介入により、病棟薬剤業務に準じる業務を行っています。H29年度は薬剤管理指導実施件数は17,702件、実施率82.5%と2年連続で増加傾向です。今後も実施率向上や病棟薬剤業務への移行を実現したいと考えています。前述の積極的な医薬品情報提供として、病棟スタッフや患者さんを対象に行う質疑応答がありますが、指標3は病棟での薬物治療における多職種連携を確認できる指標です。H29年度は相談・情報提供件数が

6,415件/年、26.3件/日で前年より増加しています。H28年度に比べて新人薬剤師も病棟業務に慣れて病棟スタッフとの連携も充実してきたものと考えます。

指標4は、入院患者さんに使用された注射用抗MRSA薬(バンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシン)の血中濃度測定により薬剤師が解析し投与設計を行った割合を示したものです。抗MRSA薬(MRSA: 多くの抗生物質に耐性を持つ黄色ブドウ球菌)は、TDM(薬物血中濃度モニタリング)による治療効果と副作用の発現に関するエビデンスが確立されており、TDMの実施は抗MRSA薬適正使用のための重要な業務の一つです。H29年度のTDM実施率は86.8%でありました。短期間の使用でTDMが必要ない症例を除きますとほぼ100%に近い実施率と考えています。

指標5に薬剤局の各種認定資格取得者数を挙げました。質の高い薬物療法を提供していくために各種資格取得者の拡大を推進しています。また基幹災害拠点病院である当院では、災害訓練や研修に薬剤師も積極的に参加し、日本DMAT隊員や災害薬事コーディネーターなど災害医療に欠かせない役割を担う薬剤師の育成にも力を入れています。

今後も薬剤師としての知識・スキルを高め、質の高い医療を提供できるよう取り組みを進めてまいります。

### 薬剤局「薬学的管理の質」インディケーター 2017

指標番号	指標名称	H27	H28	H29	算出単位	分子 / 分母および備考						
薬剤1	薬剤管理指導実施件数(件)	16,399	16,642	17,702	年度	分子：- 分母：- 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤2	薬剤管理指導実施率 (%)	79.8	80.6	82.5	年度	分子：実施患者数 分母：全入院患者数 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤3	病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数(件)	6,395	4,698	6,415	年度	分子：病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数(件) 分母：- 備考：入院患者の薬物治療に関する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤4	抗MRSA薬のTDM実施率 (%)	86.2	83.5	86.8	年度	分子：抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母：抗MRSA薬投与患者数(単回使用を除く) 備考：抗MRSA薬の適正使用に関する指標						
薬剤5	薬剤局に関連する各種認定資格取得者延べ人数(人)	25	25	26	年度	分子：- 分母：- 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する						
	各種資格取得人数(人)			H27	H28	H29	各種資格取得人数(人)			H27	H28	H29
	日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師			7	7	7	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師			2	2	2
	日本医療薬学会認定薬剤師			2	2	2	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師			1	1	1
	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師			3	3	2	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師			3	3	3
	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師			2	2	2	日本DMAT隊員			1	1	3
日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師			1	1	1	高知県災害薬事コーディネーター			3	3	3	

## 医療技術局における『医療の質向上への取り組み』 医療技術局長 谷内 亮水

医療技術局では、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、視能訓練士、臨床工学技士の8職種が、自分たちが提供している医療技術が本当に質の高いものであるのかを客観的に評価するために安全とサービス、技術の3つの分野(6つの指標)で機能を数値化し公表しています。

下記の表には指標別に平成29年度のクリニカル・インディケーターを提示しています。臨床検査技術部では、当院の基本理念に基づき患者さんおよび医療従事者に対して、安全で快適な医療環境を提供するため、全職員で感染防止対策に取り組んでいます。感染対策の基本である適切な場面での手指消毒と個人防護具(マスクや手袋など)の着用について、実施状況の指標のひとつに消費量チェックがあります。多くの患者さんに関わり、全フロアへ入室検査を実施する生理検査科を対象に手指消毒薬と手袋の消費量をクリニカル・インディケーターとして取り上げており、使用量は増加傾向にあります。一方、血液管理科では平成28年4月より運用を開始した「輸血後感染症検査」の実施率をクリニカル・インディケーターとし、向上に取り組んでいます。当院で輸血をされた患者さんについては、院内でのフォローだけでなく地域の他の医療機関からも検査結果を送っていただき、血液管理科でチェックし電子カルテへの取り込みを実施しています。輸血後感染症早期発見の

ため、検査実施率向上に取り組みます。

リハ技術部では早期離床・廃用症候群の予防に向け、発症または術後早期より救命救急病棟を含むベットの早期のリハビリテーションに取り組んでいます。多くの診療科と連携を深め、入院患者さんの早期の社会復帰や、転院調整がスムーズに行えるように、チーム医療に参加しています。また平成29年度からは日曜日勤務を開始することで365日、切れ目の無いリハビリテーションに取り組んでいます。クリニカル・インディケーターであるリハビリテーション実施率は増加しています。

医療機器を安全に使用するためには、まず医療機器を知ることが必要です。そのため臨床工学技術部では医療機器知識習得の指標として、院内の医療機器研修会の開催数を上げることとしました。この研修回数をクリニカル・インディケーターとし、医療機器知識向上に取り組んでいます。

放射線技術部では放射線技術の専門性、多様性に対応するため専門技師の育成に力を入れています。特に各分野の学会、講演会を聴講するだけでなく学術発表や講演を自ら行い、レベルアップと技術の伝授に力を入れています。

今後も、良質な医療技術の提供に取り組んでいきたいと考えています。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター 2017

指標番号	指標名称	H27	H28	H29	算出単位	分子/分母および備考
医技1	生理検査科における手指消毒薬使用量(本)	45	77	75	年度	分子：手指消毒薬の使用量 分母：— 備考：手指消毒薬は250mlを1本とする
医技2	生理検査科における手袋使用量(箱)	18	59	123	年度	分子：手袋の使用量 分母：— 備考：1箱250枚入とする
医技3	輸血後感染症検査実施率(%)	—	17.9	17.8	年度	分子：輸血後感染症検査実施数 分母：輸血患者数 備考：院外で実施された輸血後感染症検査を含む
医技4	入院患者におけるリハビリテーション実施率(%)	23.4	26.7	27.2	年度	分子：リハビリテーション実施患者数 分母：入院患者数
医技5	医療機器に関する研修開催数(回)	87	116	141	年度	分子：医療機器に関する研修開催数 分母：— 備考：メーカーによる研修を含む
医技6	放射線技術についての学会発表・講演の割合(技師一人あたりの回数)	0.73	0.65	0.32	年度	分子：放射線技術に関する学会発表と講演回数 分母：放射線技師の職員数 備考：放射線技術の質が向上する

## 栄養局における『医療の質向上への取り組み』 栄養局長 福井 康雄

栄養局では開院時から各病棟に管理栄養士を配置し臨床栄養管理を行っています。

この十数年で栄養療法の重要性は院内全体に共有され、各病棟の管理栄養士の役割も認識されています。

管理栄養士の業務は、まず栄養不良患者さんをスクリーニングした上で病状・治療経過・臨床データなどの情報を収集

します。それに基づいたアセスメントを行い、面談やカンファレンスなどを通じて適切な栄養介入を行っています。さらに日々の栄養管理とともにNST(栄養サポートチーム)も稼働しています。

又、新しい取り組みとして術前経口補液治療を導入し、患者さんからの高評価を得ております。



## ■各種認定取得の指標

栄養局では管理栄養士における各学会等の認定取得を指標としています。認定取得を推進するために学会発表や研修会参加をサポートしています。

## ■栄養指導実施率の指標

管理栄養士は、医師の依頼をもとに行う栄養指導実施率を指標としています。栄養士の視点から各種データを評価し栄養指導の必要性を医師に提案しています。栄養指導を行うことで、入院中はもとより退院後の食生活改善につながります。

## 栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター2017

指標番号	指標名称	H27	H28	H29	算出単位	分子/分母および備考		
栄養 1	治療食加算対象患者に対する栄養指導実施率(%)	40.8	39.1	32.0	年度	分子：個人・集団栄養指導の実施件数 分母：治療食加算対象患者数 備考：平成29年度は1,855/5,805件		
	栄養局に関連する各種認定資格取得者率(%)	144.4	211.1	222.2	年度	分子：各種認定資格取得者数 分母：栄養局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、管理栄養士による栄養管理および栄養治療の質が向上する(H27年度は13/9人、H28年度は19/9人、H29年度は20/9人)		
栄養 2	各種資格取得人数(人)					H27	H28	H29
	糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)					5	4	4
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本静脈経腸栄養学会認定)					2	2	2
	TNT-D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)					3	3	3
	日本病態栄養学会認定病態栄養専門師(日本病態栄養学会認定)					1	4	4
	日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)					1	3	3
	日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士研修指導士(日本病態栄養学会認定)					0	3	3
医療安全管理者(日本病院会認定)					1	0	1	

## 事務局における『医療の質向上への取り組み』

事務局長 浅野 忠

事務局では、高知医療センターが、県内の基幹的な公立病院としての役割を継続的に果たすことができるよう「高知医療センター経営計画」を策定し「経営の健全化」に取り組んでいます。また、医療現場がその機能を十分に発揮するために、人的及び物的な環境の整備をしっかりと行い、県民、市民から信頼される高度急性期病院として高水準の医療を安定して提供できるよう努めています。

人的環境整備として、診療情報管理士や医療情報技師、医療ソーシャルワーカー等の専門職を採用するとともに、医師事務作業補助者(医療秘書)による診断書や証明書、診療情報提供書等の書類の作成、学会関係のデータ登録や調査の実施等、医師の事務作業を軽減し、医師が患者さんに向き合う時間をより多くとれるよう体制強化に取り組んでいます。今後もより良質な医療が安定して提供できる取り組みを進めてまいります。

## 事務局「医療事務管理の質」インディケーター2017

指標番号	指標名称	H27	H28	H29	算出単位	分子/分母および備考		
事務 1	事務局に関連する各種認定資格取得者率(%)	54.5	53.6	65.4	年度	分子：事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母：事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する(H27年度は30/55人、H28年度は30/56人、H29年度は34/52人)		
	各種資格取得人数(人)					H27	H28	H29
	診療情報管理士					10	10	13
	医療情報技師					5	4	5
	社会福祉士					10	10	10
精神保健福祉士					5	6	6	
事務 2	医師事務作業補助者(医療秘書)	45	45	44	年度	分子：－ 分母：－ 備考：医師の事務的業務を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する		

## 第50回

# 地域医療連携研修会を開催しました！

9/2(日)に、当院くろしおホールにて、第50回 地域医療連携研修会を開催しました。当初7/7(土)の開催を予定していましたが、先の西日本豪雨により2ヶ月遅れの開催となりました。

地域の医療機関の皆さまとの連携強化を目標に掲げ、平成20年7月に開始した当研修会も回を重ねて、50回目の開催を迎えることができました。これもひとえにこれまでご参加いただいた皆さまのお陰です。改めてお礼申し上げます。

今回、当院総合診療科医長の矢野博子医師が「総合診療科の役割と地域医療連携」と題し、患者さんからよくお伺いする質問を例に挙げながら、その質問に応える形で「医療機関の機能分担と地域医療連携」について、また「総合診療科」の成り立ちや、役割、現状、今後の目標などについて、講演を行いました。

一般の方も受講可能なオープン研修としていた為、医療従事者の皆さまには、既知の情報も多かったかも知れませんが、当院「総合診療科」についてより見識を深めていただけたのではないかと思います。ご参加いただいた連携病院の先生方や職員の皆さまにおかれましては、ご多忙のところご出席いただき、誠にありがとうございました。

当日ご参加いただけなかった皆さまにもお伝えいたしたく、抜粋とはなりますが、以下に掲載させていただきますので、是非ご一読ください。



小野地域医療センター長

## 総合診療科の役割と地域医療連携

### 総合診療科 医長 矢野 博子

医療が高度化、専門化し、病院が機能分化してきたため、漂う患者さんが出てきました。「何科かわからない」「希望の科がない」と。また、常に地域の医師不足により、地域におられる高齢の医師が疲弊する事態となっています。そこで、国も率先して総合診療医の育成に力を入れ、テレビ等でも総合診療科という名前をよく聞くようになりました。

高知医療センターでの総合診療科としての役割を、私たち総合診療医が考え、また、高齢化に伴う多様なニーズにも対応していかなくてはなりません。

私は大きな軸として、7つの柱を考えています。

#### ① Common disease=よく診る病気の診療 (一般内科的診断 1次 2次医療)

まずは、かかりつけの先生を受診していただきたい疾患になります。しかし、専門科の必要な疾患ではない場合や、専門科には重度な疾患でかかっているけれど、今は違う軽度な病気にか

かっている、それを一緒に診てほしいということがあります。総合診療科で診察し、かかりつけの先生にお願いできる場合は、地域に戻っていただくように連携を取っています。

#### ② 科がわからない患者さんの診療 (診断力=ドクターG力)

大きな病院に行きたいけど、専門科がわからない。微力ですが、自分たちのできる範囲で診断をつけていきます。各科の先生の助言をいただくことも多いです。私たちがまだまだ、勉強していかなくてはいけない分野だと思っています。

#### ③ 科がまたがっている患者さんの診療 (マネージメント力)

疾患が多岐に渡る場合、患者さん自体がどうしたらいいかわからなくなっていることがあります。そのお手伝いできればと思います。各専門科の先生のところに出向き、一緒に考えていただいています。



#### ④適切な科を決める力(トリアージ力)

病気がわかった際は、専門の先生にお願いして、診断、治療していただくようにコンサルトさせていただきます。

#### ⑤地域医療、離島医療

地域高齢化が進んでいる昨今、地域の医療を助け、高度医療が必要な患者さんは医療センターに来てもらい、地域に早期に戻っていただく。地域を知っているからこそできる医療だと思います。

#### ⑥各科の先生のお手伝い

救急科の急性期が落ち着いた患者さんの内科的治療・転院・退院調整のお手伝いをしています。

#### ⑦医学生、研修医教育

これは教育病院としての役目と総合診療医を増やす努力です。

総合診療科は新しくできた科です。専門医の専門性が高まった分、その対極に総合診療医はいます。総合診療医をうまく専門医が使ってくれれば、専門医の困っているところを補える科になれるのではないかと考えています。しかし、その反面、便利ではあるけれども、「なんでも科」になりやすく、疲弊しやすい面があります。期待が大きい分「中途半端科」になりやすく、なくても良いのではないかとわれ、つぶれやすくもあります。教育をしていくことによって、自分自身も教育していく。向上心を持っていくことが大切だと思っています。

高知県の高齢者数は2040年、今から22年後には40%を越えるといわれています。2025年に団塊の世代が75歳以上になると一気に高齢者が増えます。高知県は2015年には一人あたりの医療費が全国1位になりました。人口10万人あたりの病床数も全国1位です。

国民はどう思っているかと言うと、終末期を自宅で過ごしたいと思っても、家族に迷惑をかけたくないから、体が不自由になった場合は、病院で診て欲しいという人が大半です。国は医療費の高む状況を打破しようとして、在宅を増やし、病床数を減らして、医療費を減らそうとしています。

そんな中で、患者さんは「治るまで医療センターにずっといたい」と仰います。若い人は病気になっても、手術をしても比較的すぐよくなります。しかし、高齢者はそうもいきません。ずっと病

院に入院していると、退院できない高齢者でいっぱいになります。入院が必要な患者さんが、医療センターのように高度医療ができる病院に入れなくなるのです。

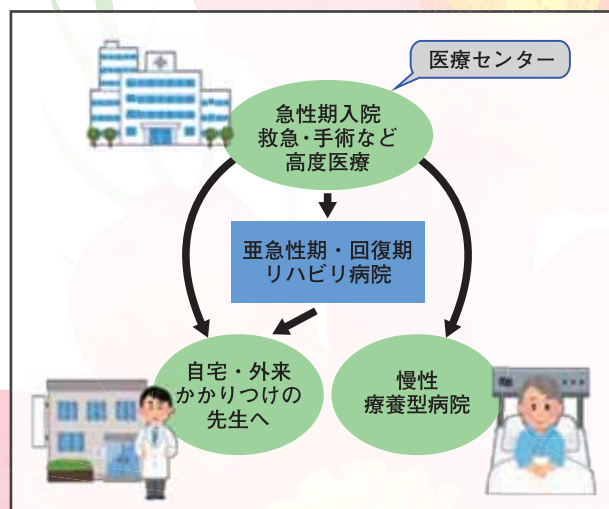
でも、入院してきたいのだから・・・こんな状態で帰されても困る・・・

では、どうするか。

病院は機能分けがあります。一般・医療療養・介護療養・地域包括ケア・回復期リハビリテーション・緩和ケアといった病棟に分かれます。それぞれが得意な分野の患者さんを診療していくことにより、高度急性期病院は高度医療や手術に特化したことができます。病気が多科に渡っていたり、社会的事情や経済的事情で退院が難しかったりした時に、各科の先生のお手伝いが総合診療科でできればと思っています(③や⑥の役目です)。

そのためには地域の状況を知らなくてはいけません。市内には比較的病院がたくさんあります。少し離れた医療センターはドクターヘリの運用もあり、東西の遠く離れたところから搬送されてくることが多いです。その時々地域の事情を知ることにより、患者さんの状況に沿った医療を提供できると考えています。また、地域の先生と顔の見える関係であることで、患者さんをご紹介していただき、急性期が過ぎた後に逆紹介させていただくことができると考えています。

総合診療科は未熟な科です。患者さんにとっても、地域の先生にとっても至らない点が多いかも知れませんが、できる範囲で寄り添いながら医療をできればと思っています。



今後も、「テーマ」「講師選考」も含め、連携強化に向け有意義な会となるよう務めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

なお、今回は11/25(日)に、当院の体外受精などの生殖医療、不妊症の専門医と臨床検査技師を講師に、「妊孕性温存」をテーマに開催予定としています。事前申込不要、入場無料で、どなたでもご参加いただけます。多くの皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
11月	2	金	<b>高知県周産期医療セミナー</b> (参加費無料・申込不要)			
			内容	患者にやさしい帝王切開とは？ minimal invasive surgeryを目指して	場所	ちより街テラス3階ちよテラホール (高知市知寄町2丁目1-37)無料駐車場60台(3階)
			時間	19:00～20:30	対象	医療関係者
	講師 亀田総合病院 産婦人科部長・医療安全管理室長・総合周産期センター顧問 鈴木 真 氏					
	お問合せ: 高知医療センター 総合周産期母子医療センター 林 TEL:088(837)3000(代)					
	3	土	<b>高知県周産期医療講演会</b> (参加費無料・申込不要)			
			内容	①患者が語る ホンネとタテマエ ～ともに考えるよりよい関係性とは?～ ②子どもが暮らす環境を豊かにするために! 岐阜での小児在宅医療38施策爆進物語2018	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			時間	10:00～13:00	対象	医療関係者
	講師 ①患医ねっと 代表 鈴木 信行 氏 ②長良医療センター 新生児科 医長 寺澤 大祐 氏					
	お問合せ: 高知医療センター 事務局 経営企画課 井上 TEL:088(837)3000(代)					
	9	金	<b>婦人科手術セミナー</b> (参加費無料・申込不要)			
			内容	卵巣癌治療 Up to Date	場所	高知医療センター 1階 研修室
時間			19:00～20:30	対象	医療関係者	
講師 三重大学医学部 産科婦人科 准教授 田畑 務 氏						
お問合せ: 高知医療センター 総合周産期母子医療センター 林 TEL:088(837)3000(代)						
14	水	<b>高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修</b> (参加費無料・申込要) ※申込期限:11月9日(金) お申込方法は※をご覧ください				
		内容	急性期病院における高齢者ケア	場所	高知医療センター 1階 研修室1・2	
		時間	17:30～19:00	対象	看護師(10名)	
講師 高知県立大学 老人看護専門看護師						
15	木	<b>高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修</b> (参加費無料・申込要) ※申込期限:11月5日(月) お申込方法は※をご覧ください				
		内容	成人BLS/AED研修	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室	
		時間	9:00～12:00	対象	看護師(3名)	
講師 高知医療センター BLSインストラクター						
18	日	<b>高新・高知医療センターがんセミナー2018</b> (参加費要・申込要)				
		内容	がん治療中の栄養と食事	場所	高新文化教室(高知放送南館3階37号室)高知市本町3-3-39	
		時間	10:30～12:00	対象	一般(40名)※先着順	
講師 高知医療センター 栄養局 がん病態栄養専門管理栄養士 佐賀 啓子						
お問合せ・お申込み: 高新文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円						
28	水	<b>平成30年度 医療技術局合同勉強会</b> (参加費無料・申込不要)				
		内容	各種活動を共有 (学会発表者から選択し院内で発表)	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	
		時間	18:00～19:00	対象	医療関係者	
講師 高知医療センター 医療技術局職員 5名						
お問合せ: 高知医療センター 医療技術局 次長 岡田・大野 TEL:088(837)3000(代)						
<b>※[高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修お申込み]</b> 申込用紙は当院ホームページ 看護師他施設公開 研修よりダウンロードできます。必要事項をご記入の上 FAXにてお申し込みください。申込代表者は看護部門の担当者様でお願いいたします FAX:088(837)6766 お問合せ: 高知医療センター 看護局 教育担当(有澤・藤本・川田) TEL:088(837)3000(代)						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

## 編集後記

今年の夏は台風・地震・大雨といった天災が多数発生し、多くの被害が起きました。テレビ放送される内容を見ながら他人ごとではない、いつ災害が起こっても大丈夫なように備えをしっかりと考えさせられました。皆さんは災害に備えての準備をご自身で行っていますか？私自身十分ではなく、今回を期に災害への備えを見直してみようと考えています。

皆さんもぜひご自身の災害への備えを見直してみたいかがでしょうか。

災害により被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

被災者の方々が一日でも早く普段通りの生活に戻れることを心より願っています。  
(地域医療連携室 細川)



平成30年11月1日発行  
にじ11月号(第157号)  
毎月発行  
編集者: 広報委員会  
発行者: 島田 安博  
印刷: 株式会社 高陽堂印刷

発行元:  
高知県・高知市病院企業団立  
**高知医療センター**  
〒781-8555 高知県高知市池2125-1  
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp